

みんなの環境

第 21 号 2009 年 6 月 2 日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

学習と実践をしながら情報を発信

厚木市ごみ対策協に参加

鷺谷雅敏

このたび、あつぎ環境市民の会は、平成 21 年度から厚木市のごみ対策協議会のメンバーとして参加することになりました。

*

わが国は大量生産、大量消費、大量破棄のもとに高度成長してきました。それとともに出た大量の廃棄物は田舎へ田舎へと運ばれ、水源となるような日本の美しい里山が、信じられないほどあちこちでゴミ捨て場にされました。また焼却場からはダイオキシンが排出されるなど、多くの問題が表面化しました（現在も問題は山積みされ続けています）。

そこで、神奈川県では自分たちのごみは自分たちの地区で処理する！という「県内廃棄物処理 100%」を策定し、県内を 9 ブロックに分けて、焼却場、処分場をブロックごとに設置し、県外にはごみを持ち出さないという計画を立てました。

これを受け、厚木市、愛川町、清川村の 3 市町村で厚木愛甲環境施設組合という広域連合が設立されました。3 市町村の広域処理を目指して中間処理場（ごみ焼却場）を厚木市に、最終処分場を清川村に設置する計画を立てています。さる 3 月 26 日に組合議会が開かれましたが、厚木市の焼却場候補地の選定遅れから最終処分場の工事予定との間に大幅なずれが生じるなどの問題が表面化しています。

*

数年前、当時、ごみ焼却灰の処理場として契約していた民営の最終処分場を見学する機会がありました。谷戸の地形を利用した設備は近代的で素晴らしいものでしたが、その隣には、なんと保育所らしき施設があることに大変おどろかされました。私たち厚木市民の出したごみが、ここに住む人たちに迷惑をかけていることに申し訳がないと思うと同時に、ごみの最終的な行き先まで見届けることは、ごみを出す私たち一人ひとりの責任でもあることを痛感しました。

厚木市は平成 26 年度までに、資源化率を 35%、減量化を 14 年度比 30% 減の目標を立てています。ごみ問題は身近なことで誰でもできることです。あつぎ環境市民の会は、自分たちのこととして、できるだけ貢献していきたいと思えます。

*

私たち自身が毎日出しているごみは、資源を無駄遣いし、地球温暖化を促進し、多額の税金を使って処理をしています。私たちが真剣にごみを減らし、もっと福祉や、教育に税金を生かすことができるものではないのでしょうか。市民にできることはなにか？行政の役割はなにか？企業に求めていくことは何か？協議会の一員として学習と実践をしながら、情報を発信してまいります。

あつぎ環境市民の会「平成 21 年度総会」が開催されました。

あつぎ環境市民の会の平成 21 年度定時総会が 4 月 7 日、開催されました。

「平成 20 年度事業実施報告」、「平成 20 年度収支決算報告」、続いて「会則の一部変更(案)」、「平成 21 年度事業計画(案)」および「平成 21 年度予算(案)」の提案説明があり、それぞれについて意見を交換、各議案について採決の結果、全員異議なくこれらは承認されました。最後に現在空席になっている副会長に全員一致で井上允さんを選出しました。

あつぎ環境市民の会 会則は次のように改正されました。

会員について、第 4 条(会員)に「会員は環境活動を行っている者および環境に関心を持つ市民とする」とあります。環境が多くの人に理解されるに対応し、より多くの市民に会員になってもらおうとの趣旨で現行の 1 種類の会員を A 会員、B 会員の 2 つに分け、これを次のように改正するものです。

第 4 条(会員) 会員は環境活動を行っている者および環境に関心を持つ市民とする。会員は A 会員と B 会員とする。A 会員は総会において議決権を行使できる。

また、これに対応して会員の会費について次のように改正するものです。

第 10 条(会費) 会費は、A 会員年額 2,000 円、B 会員年額 1,000 円とし、毎年度当初に納入する。年度途中の 10 月以降に入会する者は年会費の半額を納入するものとする。

あつぎ環境市民の会・会則の一部変更は平成 21 年度総会において承認されました。

本年度より新しい会則のもと、A 会員、B 会員の 2 種類の会員もって出発することになります。本会則の変更は、環境に関心を持つ多くの市民を仲間に迎えたい、そんな意思の表れと考えてください。

あつぎ環境市民の会が平成 21 年度に実施する事業計画の概要

| 実施の時期 | 事業の内容 |
|----------------|---|
| 月 1 回(第 1 火曜日) | 定例会。会員のその月の環境活動に関する情報の交換を行います。 |
| 月 1 回(最終金曜日) | 厚木産野菜類の地産地消を実践します。 |
| 4 月 | 春の里山を歩きます。 |
| 5 月 | 水生生物を調査します。 荻野川を観察します。(バードウォッチング) |
| 6 月 | 大気汚染物質のモニタリングを実施します。 |
| 7 8 月 | 子供達の夏休みの環境学習を支援します。 |
| 9 月 | 水生生物を調査します。 |
| 1 2 月 | 大気汚染物質のモニタリングを実施します。 みんなの環境展 2010 に向けての準備に取り組みます |
| 1 月 | 「みんなの環境展 2010」の開催です。 水生生物を調査します。 |
| 2 月 | 津久井在来の大豆で味噌作りをします。 |

* 実施詳細については会報「みんなの環境」でお知らせします。

(事務局 山中延明)

私たちの活動

再訪しました「春の里山」観察会

日時：2009.4.18(土) 10:00～15:30

場所：上荻野バス停 田尻 打越峠 馬坂 海底
(おぞこ) 勝楽寺(半増坊)

参加者：5名 講師：青砥さん、長岡さん



草はらで昼食中、キジの雄が現れる

曇り空でしたが、気候の関係で昨年と開花の有無により植物の発見種類に差がありました。

ポタンサクラが満開、遠近山の木々ごとに新芽濃淡色差が薄れていましたが、多様な樹木を連想させる遠望、のどかな暮らしを彷彿させる屋敷内外の樹木や花卉のピンクや赤色、萌黄など、畑では、白菜

から出ている菜の花を確認、花や草毎に古外来種、近外来種などの解説を受けながらまた、雑木林から「ポッコポッコ」と鳴くツツドリやウグイス等小鳥の囀りに迎えられた道中でした。

打越峠付近では農家とも交流し葱のプレゼントをいただいた。昼食中に金属光沢の緑色、目のまわりに赤い肉垂がある羽毛のきれいな牡雉の御成りを目撃し、相手を探しているか、誘っているのか、時々「ケーン」の鳴き声やもたげた首の振り方など、その挙動に関心を寄せました。

また、昼休みに立松和平著「道元禅師 上」の紹介...草木国土悉皆成仏(そうもくこくどしっかいじょうぶつ)...とは、森羅万象全てのものがお互いに布施し合っているということです。

雨は植物に布施している。植物は人に布施している。種を蒔き木を植えて人は植物に布施している。木の生い茂った山は雲を呼んで雨を布施してもらおう。800年以上も前から仏道の法典に記された自然環境の大切さが忘れられていた。最近は、[食の連鎖] [生物多様性] などとして有識者から活動が始まった。など、仏道から学んだひと時もありました。
(高橋弘毅)

私たちの活動

荻野川の野鳥をたのしむ



櫻井氏の案内で荻野川左岸を観察

真夏を思わせる強い日差しの5月9日、荻野運動公園に会員やタウン紙の記事で関心をもった14名が集合した。ご案内は荻野川を長年フィールドにしている櫻井武氏。

運動公園を出発して権現堂橋より左岸を遡った。ハクセキレイ、イソシギ、カイツブリ、カルガモなど観察しながら金山橋まで。サル、アオダイショウ、ミシシッピーアカミミガメにも出会った。途中、無道谷から散策路に入る。新緑がまぶしい。キビタキ、ヒヨドリ、

メジロ、ウグイス、キジの声を聞きながら歩くが、懸念していた通りヤマビルの攻撃が厳しく観察どころではなくなってしまった。オオタカは聴きもらった。

昼食後、こんどは権現橋より下流を山中橋まで左岸を歩く。広町公園は工事中で以前の面影はない。完成後も工事前と同様野鳥が戻ってくるか心配だ。池に自生していた貴重なミクリは保護されていた。アオサギ、ヒヨドリ、カワセミなどを観察。立派な山中橋はなぜか渡るとすぐ行き止まり。ゴルフ場の縁を運動公園に戻る。少なくなったオドリコソウ、休耕田一面のムラサキサギゴケ、満開の荻野の銘木、ユリノキなど。小学生から60歳代まで幅広い年齢層の観察会だったが、櫻井氏の卓越した解説は参加者を魅了、充実した1日だった。
(長岡 恂)

神奈川工科大学でキャンドルナイト in KAIT

～でんきを消して、スローな夜を～

キャンドルナイト in KAIT が 6 月 20 日(土)19 時から市内下荻野の神奈川工科大学キャンパスで開かれる。

2001 年、1 か月に 1 基ずつ原子力発電所を建設するという米ブッシュ大統領の政策に反対する「カナダの自主停電運動」をヒントに、2003 年夏至（同年 6 月 22 日）に始まったこのスローライフ運動は、百万人のキャンドルナイトとして、日本各地にすっかり定着してきた。

今年は夏至前夜 6 月 20 日(土)～7 月 7 日(火)の夜 8 時～10 時の 2 時間みんなで一斉に電気を消そうと運動が全国展開される。

神奈川工科大学の“キャンドルナイト in KAIT”は、4 月から始まった学部・学科横断型“新”教育プログラム Stop the CO₂ Project で Stop the CO₂ 入門を履修している学生 76 名とプロジェクト担当教員が中心になり、当日使用する数百本のローソクは、有志学生がバイオディーゼル用に大学が所有している廃食油を使って学内の工房で製作する。当日は様々な催しも企画されているので、身近で行われるキャンドルナイトにあなたも参加してみませんか？

日時と場所：6 月 20 日(土)19 時～21 時 神奈川工科大学内中央緑地公園（雨天の場合は翌週）
（井上 允）

すてきな若者が仲間に…… 小泉壱徳(こいずみ・かずのり)さん

インタビュー：狩野光子・川越勝晶

爺婆の堆肥作り農業にまみれ、10 時・3 時のお茶にあこがれながら育った。社会にはカメラマンとして就職したが、画像で訴求できる写真家を求められていないと悟り、退職して父がやっていた古本屋を引き継いだ。本は売れないが、店番で本を読みあさり、感性が磨かれた。

厚木・中町の“バオバブ”が売りに出ており、自分の遣りたいのは“これ”と“晴れ屋”を約 4 年前に開業。古着リサイクル、オーガニックレストラン、安全日用品・野菜販売を開始。仲間とも出会って、昨年からは安全野菜作りも開始した。「畑は風景作り」「鯉節を削り、釣った魚と自作の無農薬米を食べるのが最高の楽しみ」「健康の源は野菜多食」「ペットボトルのキャップを集めるのではなく、ペットボトルを使わない」「輸入古着でなく、古着の国内循環」と語る、32 歳の新しい仲間・小泉壱徳さんの目が輝いていた！



みんなの環境 第 21 号 2009 年 6 月 2 日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp

事務局 〒243-0817 厚木市王子 2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A:2000 円 B:1000 円)

(C)あつぎ環境市民の会 2009